

令和6年「地盤工学会誌」優秀賞受賞者の決定

令和6年「地盤工学会誌」優秀賞受賞者が、令和7年2月13日の表彰委員会において下記のとおり決定いたしました。

【「地盤工学会誌」年間最優秀賞】

受賞業績名／業績発表文献	受賞者名
地盤工学における模型実験 第6回 各論 土構造物／2024年2月号掲載（講座）	渡邊 健治（東京大学） 平川 大貴（中央大学） 上野 勝利（徳島大学）
<p>●授賞理由：本記事は、土構造物に関する模型実験について、地震時土圧、補強土構造物、軟弱地盤上の堤体の具体例を通じて解説したものです。相似則の考え方や計測の工夫に加え、実験の過程で直面した課題や試行錯誤の経験談も交え、模型実験の実践的な知識や魅力を伝えています。さらに、実験目的に応じたモデル化の考え方についても具体的に述べられており、学生や実務者・研究者にとって有益な知見を提供する内容として、多くの読者に支持されました。</p>	

【「地盤工学会誌」優秀賞】

地盤分野における工学と理学の協働 建設コンサルタントの技術者が考える地盤工学と応用地質学の協働／2024年6月号掲載（論説）	中井 真司（復建調査設計（株））
<p>●授賞理由：本記事は、著者が実務を通じた得た知識・経験に基づいて、自然現象の地盤工学および応用地質学的視点の違いについて説明するとともに、両学問分野の協働の重要性・必要性についてまとめられたものです。全体的に分かりやすい文体で執筆され、また、著者が実務を通して経験してきた事例に基づいた内容となっており、著者の説明・主張に非常に説得力があります。本記事を通して、応用地質との協働の必要性について理解を深められるとともに、地盤工学の特長について再認識できるようになっており、多くの読者に支持されました。</p>	
地盤工学における地形情報の活用 ～航空レーザ測量データを用いた斜面災害リスク評価を例に～／2024年10月号掲載（論説）	高山 陶子（アジア航測（株）） 榎野 博（アジア航測（株）） 落合 達也（アジア航測（株）） 松田 昌之（アジア航測（株））
<p>●授賞理由：本記事は、航空レーザ測量による地形データを地盤工学に活用するための処理方法や評価事例について詳細でわかりやすい図などを用いて解説されています。地理空間情報の利用は多くの分野で注目されていますが、本記事は基礎的内容についてコンパクトにまとめた教科書的な役割を果たしうると考えられます。さらに、記事全体のクオリティの高さと読みやすさから、多くの読者に支持されました。</p>	

（注：敬称略，受賞者の所属は掲載当時）